

「扇の的」と「運命」

今日は2年生の国語と音楽の授業を参観しました。国語は「平家物語」の中でも特に有名な場面である「扇の的」の場面の学習でした。那須与一が矢を射ったことに対しての与一自身や周りにいた源氏や平家の気持ちを考える学習でした。この場面は心が揺れ動く場面です。子ども達は文中から根拠となる表現を抜き出し、心情を説明していました。参観していて、とても面白く、国語の奥深さを感じる授業でした。

音楽では、ヴェートーベン作曲の「運命」を題材としていました。班員を第1～4楽章に振り分け、各楽章の特徴を分析し、運命に代わる題名を考えようという授業でした。同じ楽章の曲を聴いてもそれぞれで受け取り方や表現・題名が違うところが面白かったです。芸術教科の面白さを感じることができた授業でした。

子ども達は日々、多様な授業を受け、知識や技能を身につけたり、感性を磨いたりしています。授業中、熱心に学ぶ子ども達の姿も素敵でした。今後も授業の様子を紹介していきたいと思います。

☆ 授業の様子

- 2年国語：扇の的



- 2年音楽：ヴェートーベンの運命

